旅行の記録　　2018 年 8 月 11 日～8 月 12 日

2018 年　研究室旅行 in 和歌山

文責　伊東　丈太郎　ITO Jotaro　学部 4 年
末澤　理希　SUEZAWA Riki　学部 4 年
田中　健造　TANAKA Kenzo　学部 4 年

今年度，木村研では研究室旅行として 8 月 11 日～12 日の期間に和歌山県を訪れた．今回の旅行では様々な観光地を巡ることで，研究室の親睦を大きく深めることができた．以下にその内容を報告する．

1 日目　出発、そして和歌山県串本町へ

朝に京都駅で木村先生と合流するグループと，桂キャンパス，そして桂駅に集合する 3 つのグループに分かれ，自動車で白浜の「とれとれ市場」に向かった．道中の車窓からも海は見えていたが，到着して車外に出るとすぐに磯の香りに出迎えられ，海に来たことを全身で体感した．とれとれ市場では，お刺身や海鮮丼，鯛の塩焼きなどの昼食を頂いた．その身は脂がのっており，食べ応えのある昼食であった．

その後，またしばらくの間車に揺られ，我々は和歌山の南端に位置する大島を目指した．道中，休憩のために立ち寄ったくしもと大橋では小さく可愛らしい灯台を見ることが出来た．昼間は目立たずとも，夜間には明かりをともし，その存在を必死にアピールするのだと思うと何とも言えないいじらしさを感じたのは筆者だけではなかったのであろう．留学生の先輩方もその灯台を指さし，写真を撮られていた．

くしもと大橋を訪れた我々は続いてトルコ博物館に向かった（**写真 1，2，3**）．トルコ博物館では，1890 年のエルトゥールル号遭難事件について知ることが出来た．台風により食料の蓄えがわずかであったにもかかわらず，村人総出で救助，介抱したことに感銘を受け，また村人たちの素晴らしい行動が，後の国家間の友好関係に結びつくことに，歴史を知る面白さを再確認した．[1)]

写真 1　ひっそり佇む小さな灯台

写真 2　トルコ博物館内での集合写真

写真 3　トルコ軍艦遭難慰霊碑

写真 4　樫野埼灯台からの景色

写真 5　魚を焼いてくださる木村先生

写真 6　食材が焼ける様子

奥に進み、岬にある樫野埼灯台に上ると、目の前に広がるのは一面の大海原（**写真 4**）．澄んだ水の青と波しぶきの白とのコントラスト、途切れなく続く水平線が未だに目に焼き付いている．また、博物館近くの有名なお店のトルコアイスを頂いた．ラン科植物の球根からくる独特な粘りはまさに餅のようで、コクのある味わいを楽しむことが出来た．トルコアイスと言えば、客が商品を取れそうで取れないあのパフォーマンスが有名であるが、我々の人数が 10 人を超えていたためか，手際よく作って下さり，待っている間も楽しい会話で盛り上げて下さった．

日も傾き始めたため、我々は本旅行の宿である「みさきロッジにしだ」に戻り、夕食のバーベキューの用意を始めた．筆者は火を起こしたことがなかったが、先輩方がして下さったのを見て、そのコツを掴むことが出来た．無事に炭に火がつくと、いよいよバーベキューの開始である．網にはムスリム専用のコーナーも設置され、食文化によらず皆で火を囲み、話も弾んで非常に楽しい時間を過ごすことが出来た．中でもやはり圧巻だったのは白浜で調達した海の幸である．和歌山の豊かな海が育んだ貝や魚は、網の上に並んでいるのを見ただけで我々の食欲をそそり、またその焼き加減は木村先生が直々に見て下さった（**写真 5，6**）．そのため、最高の状態に仕上がった海の幸に我々は舌鼓を打った．おいしい夕食は暗くなってからもしばらく続いた．

夕食後の旅館での宴会では、先輩方が研究のことなど色々なことを話して下さり、その熱い言葉に、これから始まる研究生活をより一層努力しようと励まされる気持ちになった．その後、満点の星空を堪能し、眠るのが惜しくなりながらも研究室旅行一日目が終了した．

2 日目　奈良県経由で帰路に就く

朝 8 時半に「みさきロッジにしだ」にて，港町ならではの海の幸を使った朝食を頂いた（**写真 7**）．その後 3 台の車に分かれ橋杭岩へと向かった（**写真 8**）．橋杭岩は大小様々な約 40 もの岩がおよそ 850 m にもわたって一列に並ぶ大迫力の景勝地であり，国の名勝や天然記念物にも指定されている．[2] 橋杭岩にて 20 分程度の自由時間を設け，磯にて水棲生物の観察や，売店でソフトクリームを食べる等各自思い思いの時間を過ごした（**写真 9**）．

続いては車で明神の潜水橋へと向かった．この橋は増水時には古座川の水面に隠れて見えなくなることからその名がつけられたという．欄干のない幅約 1.5 m の潜水橋を皆で渡るのには少し肝を冷やしたが，河原に降りて無邪気に遊ぶうちに心が洗われていくのを感じた（**写真 10，11**）．

再び車に戻り，続いては勝浦町に位置する那智の滝へと向かった．熊野那智大社の別宮である飛瀧神社のご神体である那智の滝は落差 133 m あり，一段のものとしては日本一の高さを誇る．[3] 荘厳なその滝を目の当たりにした時は，あまりの迫力に畏敬の念を覚えずにはいられなかった．滝をバックにした写真撮影の際には，木村先生自らベストなアングル・構成の写真を撮って頂き，学生は綺麗かつ遊び心のある写真の撮り方についてもご教授頂いた（**写真 12**）．滝を堪能した後，学生は美しい石段の続く大門坂を，幻想的な杉並木に囲まれながら降りていき那智の滝を後にした．

写真 7　朝食の様子

写真 8　橋杭岩での集合写真

写真 9　磯の生物の観察

写真 10　潜水橋を渡る様子

写真 11　古座川にて

写真 13　吊り橋を渡る先輩方

写真 12　那智の滝のベストショット

各車ごとに昼食を済ませ和歌山県に別れを告げ，奈良県吉野郡十津川村に架かる日本最長の生活用鉄線の吊り橋である谷瀬の吊り橋[4]へと向かった（**写真 13**）．全長 297.7 m，高さ 54 m の谷瀬の吊り橋は観光客で賑わっており，吊り橋を体験する人々の行列ができていた．筆者は吊り橋を渡るのは初の経験だったため，想像以上の揺れに恐怖してしまい，すっかり及び腰になってしまった．ほんの数十 m 進むだけでかなりの時間がかかり，橋の対岸が恐ろしく遠くに感じられた．無事に戻って来られた時は，揺れのない安定した地面に立っていられることの喜びを再認識し，京都への帰路に就いた．

2 日間の旅行では，和歌山県や帰路の奈良県の様々な観光地を巡ることができ，非常に充実したものであった．京都駅にて解散し，一泊二日の研究室旅行は幕を閉じた．

感想

今回の研究室旅行では，和歌山・奈良の自然豊かな景勝地を数多く訪れた．そして観光や BBQ などのイベントを通して研究室のメンバーとの親睦を深めることができ，大変充実した旅行であった．

最後に，この楽しく思い出深い旅行の綿密な計画を作り，スムーズな引率をして下さった M1 の先輩方，長距離の車の運転を旅行中引き受けて下さった木村先生，宮崎先輩，木村先輩，そしてお忙しい中旅行に来て下さった木元先生に感謝の意を表します．本当にありがとうございました．

参考文献

1) エルトゥールル号遭難事件から 125 年，URL：https://www.nippon.com/ja/genre/politics/l00127/（2018/08/23 アクセス)

2) 橋杭岩，URL：https://ja.wikipedia.org/wiki/橋杭岩（2018/08/23 アクセス）

3) 那智の滝，URL：https://ja.wikipedia.org/wiki/那智滝（2018/08/23 アクセス）

4) 谷瀬の吊り橋，URL：https://ja.wikipedia.org/wiki/谷瀬の吊り橋（2018/08/23 アクセス）

ギャラリー

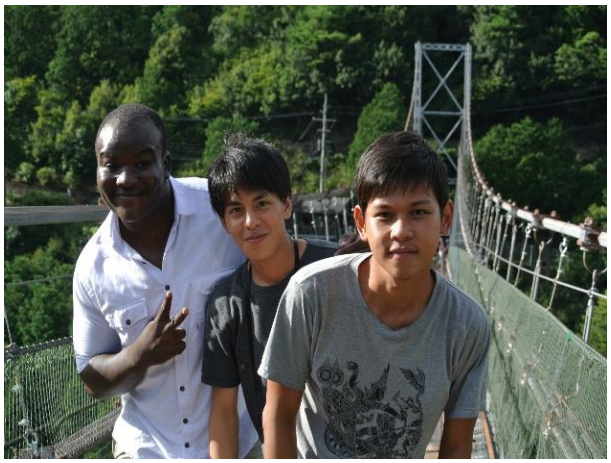
騎馬像とビビアン先輩

火起こし

乾杯の儀

樫野埼灯台にて

大木に語りかける小西先輩



吊り橋も余裕の表情